

## 令和6年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 P T A	
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	81人

### 1. 使用状況

寄贈物品名	オミ・ビスタ(映像装置)
使用学年及び人数	小学部～高等部 通学生72人
使用頻度	年30回程度
使用状況	<p>自立活動や生活単元学習、美術、交流等に活用している。</p> <p>校外学習「水族館に行こう」の事前授業では、水中を泳ぐ魚の映像や跳ねる水の音を流しどこに行くのかを印象付けたり、交流会では、交流相手と一緒にゲームを楽しんだりした。</p> <p>個別でも集団でも課題や目的に合わせて使用している。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>水族館への校外学習事前学習に使用した。車いすに座り、部屋を暗くすることでゆったりと水中を動く魚に気づき、じっくり見たり目で追ったりする様子が見られた。また、床に座ると四つん這いになって魚を追いかけ捕まえようとしたり、水が跳ねる音や流れる音に耳を澄ませたりするなど主体的に活動する様子も見られた。</p> <p>学年交流では対戦ゲームに使用した。車いすを利用している生徒でも映像を踏むことでトマトをゲットすることができ、教師を介して「そこにあるよ。」と応援合ったり、会話したりして自然に関わり合いながらゲームを楽しむ様子が見られた。その場にとどまり同じ活動を行うことが難しい生徒も、映像の動きを注視し、夢中になって追いかけるなど集中し一緒に活動することで、同じ場で学習する経験を積むことができた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>子供たちの五感を刺激し、じっくり耳を傾けたり、注目したり、自分からの主体的な動きを引き出したりと、音楽や体育等の授業でも使用していきたい。</p> <p>また、現在行っている通常学級との交流においても、ペアやグループになりゲーム性のある内容を子どもたちが協力して行う等のルールがある中で活動しながら、障害の理解やお互いを思いやる気持ちの醸成につなげたいと考えている。</p>
その他希望や所感など	<p>寄贈していただき、ありがとうございました。今後も大切に使用させていただきます。</p>

## 2. 活用の様子

魚が水中を泳いでいる様子をよく見たり、水の流れる音に耳を傾けたりしている児童たち。



浅瀬にいる魚を捕まえようとして追いかけたり、手を伸ばしたりしている生徒たち。また、花火の映像や音を、体全体で感じている生徒。



学年交流会では、対戦式のゲームを行った。多くのトマト（ピザの具）を集めた方が勝ち。声を掛けて応援したり、相談したりする生徒たち。